

Archipelago

~ COMME des ECARTS ~

Agenda

このスライドは以下の項目について解説しています。

- サービス名
- コンセプト提言
- 理由説明
- 実生活の中での取り入れ方

などを中心に、final stageでのプレゼンのワイヤーフレーム（モック）として活用するための簡易スライドです。

コンセプト

"建築としての音楽"を定義して
人々の生活スタイルを再構築する。

空間を動的なデバイスにすることの意味

例として都内ではもうすでに新築を建てることが困難になっている。

しかし、私たちの生活スタイルは高層マンションや住宅の多くが建設された高度経済成長期とはかけ離れている。

昔は団塊世代などを代表に大家族が多かったが、いまは核家族や子供を持たない家庭が増えてるなど、より生活空間として多様性が求められていて、過去の物件はマッチしていない。

例として、目黒区の2016年の新築物件の十ちょっとであり、ほとんどが中古物件である。またリノベーション業界も非常にアツいのも根拠として強い。

そのため、ライフイベント（結婚、子供ができる）などや、記号的意味（見栄え、自分の考え方との共感）で空間を乗り換えるように、引越しを行うことが非常に多い。

総括すると、変化の遅い建築を変化の早い社会で活かすために音楽を利用したいのです。

空間を動的なデバイスにすることの意味(続き)

建築士の人は、空間を設計しクライアントに与える。

しかし、空間を与えるということは時間を与えるということ。

空間に生きる人間たちに時間を与えることで、建築物としては動的な生命体である。

設計したときが価値のピークではない。

そこで使う人々の人生のシーンと結びつき、想い出になることではじめて生命が吹き込まれる。建築として生きて、そこに人々のストーリーがうまれ価値がつけられる

設計して投げっぱなしではいけないのだ！！！

ビジネス関連

まず不動産開発という面で、明らかに新築はプレーヤーが少ないものの大手である。

その理由は明快で、たとえばマンションを建てるとなると2年の建設時間に対してその間は利益0。土地代は莫大。

→初期投資に100億円程度かかると言われていて、大手くらいじゃないとできない。

一方で不動産会社は一部屋単位で売買することができて、1億円あればはじめられます。また、1億円をもっている企業はごろごろいます。

このデバイスを持ち込むなら、小さな不動産のようにリノベーションして販売することが考えられます。

中古物件のマーケットは全体の約8割といわれていますが、アメリカのように9.5割まで上昇するのではないかと考えられています。

いろんな生活スタイルに合わせることができるデバイスは、これからとても価値のあるものになるのではないかと考えます。